

取組と目標に対する自己評価シート

年度	平成 30 年度
----	----------

前期（中間見直し）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・地域支え合い推進員を配置し、在宅生活をおくる上で不可欠な支援や地域資源の調査を実施し、必要な支援について分析を行う・地域の支え合いを進めるため、地域住民の機運醸成を図る・市と地域支え合い推進員の連携、関係機関との考え方の統一を図る
自己評価結果
<p>・地域支え合い推進員は7月からの配置となり、前期は、市と地域支え合い推進員において本市の生活支援体制整備事業の方向性についての確認が主業務となったため、事業の全体的な評価は後期に実施する。</p>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・互助活動を地域住民が実施していくには、地域の支え合いを理解していただく必要があり、理解には時間を要するため、地域の支え合いや介護予防の重要性について説明し、機運醸成を図る。

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・地域支え合い推進員が、在宅生活をおくる上で不可欠な支援や地域資源の調査を実施し、本市に必要な支援について分析を行った・地域の支え合いを進めるため、地域住民の機運醸成を図った・市と地域支え合い推進員の連携、関係機関との考え方の統一を図った
自己評価結果
<ul style="list-style-type: none">・既存の高齢者ニーズ（アンケート結果等）や地域資源をまとめるとともに、住民座談会等の実施による地域課題の確認、地域包括支援センター・ケアマネジャーからの高齢者ニーズに関する聴取、地域ケア会議からの情報収集により、全市的な高齢者ニーズの把握を行い、次年度以降の対応について考察を行った。・老人クラブ連合会、小学校区ごとにある地域組織等の会合で、地域の支え合いや介護予防の重要性について説明し、機運醸成に努めた。・市と地域支え合い推進員、地域包括支援センターで当該事業の方向性を議論し、事業の進め方をまとめ、関係機関から構成される協議体において共有することができた。
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none">・全市的な高齢者ニーズの把握に続き、地域によるニーズの違いを把握し、試行的に地域ケア会議等を活用した地域の課題解決に向けた検討を進める。・在宅生活をおくる上での課題（困りごと）解決の手段として、民間企業等のサービスをまとめ、有効活用の検討を行う。・地域の出前講座等では一部から「支えられる側である」との意見もあったことから、介護予防の必要性や担い手としての活動、自助や互助の取組みについて、引き続き出前講座等により周知啓発を図る。